

ほっとCommunication

2018年10月発行
第80号

発行 後援会
印南 宏
発行責任者 印南 宏



天変地異

今年は台風や地震がたいへん多く日本列島に襲いかかっています。西日本の記録的な豪雨、相次いで上陸してくる台風、北海道で起きた震度七の地震とブラックアウト(電源麻痺)など、被害は広範囲に及び、地域のライフラインや日本経済に多大な影響を与えています。こんなに自然災害に見舞われる事は過去になかったことだと考えます。今日まで構築してきた高度なネットワーク社会の弱点をさらけ出し、大規模化する災害にどのように対処していくのか、今後の「減災」にどう生かすのか、危機管理の総点検が必要になっていきます。

総裁選挙

国政では総理大臣を決める自民党総裁選が終わり、

安倍首相が大方の予想通り、連続三選を果たしました。敗れた石破氏は善戦し、党員票では予想を超える十県で首相を上回る結果を残しました。この要因は、安倍首相が行ってきた政権運営に問題があると私は思っています。国民が多く反対する法案に強行採決を繰り返す強引な国会運営、改ざん、隠蔽、はぐらかしで、森友・加計学園問題も中途半端で逃げているような姿勢、言葉だけの「謙虚」「丁寧」という繰り返しの虚しさ、これらを感じてしまう虚しさ、この方々を向いていない」という“反”安倍の党員票を多く生み出した要因になったものと思っています。

安倍首相には、自己保身に陥ることなく、政治の信頼回復に努めてほしいと思います。特に、本質的な問題である「人口減少問題と高齢化の進展」は国民との信頼関係を立て直した上で、一強政権だからこそ取り組み難問として果敢に取り組み、総裁選の公約として「人生百年時代」、全世代型の社会保障制度に向けて三年で

改革するという決意を首相は述べていましたが、年金受給開始年齢の選択肢を七十歳超にも広げるだけでなく、抜本的な改革、国民の嫌がる政策を打ち出して解決への道標を三年で提示してほしいと念願しています。そして、私が安倍首相に最後の三年間で改善・実現してもらいたいことは、増え続ける非正規労働者や女性労働者などの問題、非正規労働者を安定させ、正規労働者も納得するような対策に努めてほしいです。もう一つは、NHKや民放などのメディアに対する政権の監視、批判の制限など、報道の自由への攻撃を終わらせてほしいと思っています。労働改革と真の報道の自由を実現してほしいと懇願いたします。

東京オリパラ

来年二〇一九年は、天皇陛下の退位と皇太子の即位が決まっています。今年が平成最後の年、新たな元号となる来年、二〇二〇年の東京オリピック・パラリピックと時代は続きます。

持続可能で住みよい国、日本の創造に政権は全力で取り組んでいただきたいと思います。



我孫子市少年サッカー大会
顧問として挨拶

『政治に無関心でも生きていくことはできるが、政治に無関係では、決して生きていくことはできない』

印南 宏 現在の主な役職

我孫子市議会 環境都市常任委員会 副委員長
議会改革特別委員会 代表
会派「あひこ未来」の会 副会長
連合千葉 議員団会議 前幹事長
電機連合 議員団会議 ブロック幹事
その他
我孫子市サッカー協会 顧問
我孫子市ソフトボール協会 顧問 など

◆9月定例市議会◆

九月三日(月)～
九月二十七日(木)二十五日間

三十年度の中間期である九月議会、主な議案は、地方交付金や国庫支出金などの額が確定したことに伴う、三十年度一般会計補正予算(七億六千二百万円を追加、補正後、一般会計予算は三百九十億一千九百万円)、二十九年年度の一般会計決算と水道事業決算の認定、手数料条例や火災予防条例の一部改正、天王台六丁目地区雨水幹線整備の工事請負契約、教育委員と人権擁護委員を任命する人事案件など、議案二十件、すべて可決・承認された。

請願関係では、印南が紹介議員となった、「国における平成三十一年度教育予算拡充に関する意見書」提出を求める請願、「義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書」提出を求める請願を全会一致で可決、湖北台団地自治会から提出された「都市再生機構管理の賃貸住宅を公共住宅として維持すると共に継続居住者の生活の安定を求める請願書」を可決、内閣総理大臣や関係する各大臣に送付しました。

九月定例市議会は各会派による代表質問、そして個人質問が

行われ、三日間で十二名の議員が登壇した。一般質問日の初日、清風会の代表質問に答える形で、星野市長は、任期満了に伴う我孫子市長選(来年一月十三日告示、二十日投票)に四期目を目指して立候補することを表明した。現段階では立候補を表明した方は他にいない。来年は市長選の他、四月の県議選、七月の参院選、十一月の市議選と四年に一度、我孫子市は一年中が選挙の年となる。

9月定例市議会 印南宏の個人質問

■コミュニティ行政

- 1) まちづくり協議会と近隣センター
- 2) 地域会議の現状と課題
- 3) 地域担当制の導入
- 4) 近隣センターの施設内容の点検・整備(布佐南近隣)



■農業行政

- 1) 我孫子市エコ農業推進基本方針
- 2) 農業者への支援、連携施策
- 3) アクションプランの今後

■交通行政

- 1) 成田線の利便化
- 2) 成田線活性化推進協議会の活動
- 3) 成田線開通120周年記念事業



9月定例市議会 個人質問の様子

宏はこう考える

中央省庁の障がい者雇用水増し問題 先導役がごまかす罪深さ

国土交通省や総務省などの中央省庁が障がい者の雇用割合を四十二年間にわたり水増しをしていた。障がい者の雇用と自立支援を促進すべき先導役が信じがたい背信行為である。民間企業は雇用率を達成していないと労働局から厳しい指導を受け、従業員百人以上の企業は未達成分一人当たり、月五万円の納付金が課せられる。改善しないと企業名が公表されるなど、国から制裁を受ける。何を信じて良いのか、途方に暮れる。長年にわたって見過ごしてきた厚生労働省の責任は重い。政治が率先して調査の役割を果たすべきなのだが、動きは鈍い。全容解明には、ほど遠い状況である。

我孫子市における障がい者雇用率は平成三十年六月時点、市長部局が二・八七%、教育委員会が二・七三%と総務課より回答をいただいている。(法定雇用率、二十九年二・三%、三十年二・五%)

しかし、その後、障がい者雇用率の算定の際、一部の非常勤職員について、参入する必要があることが判明するなど、精査の必要が生じている。我孫子市は全国有数の非常勤職員が多く働いている自治体であり、雇用率はいただいた回答より、少し下がるものと考えられる。

ただし、我孫子市は対象の障がい者の計上について、いずれの障害も手帳による確認を行っており、不正な参入等は一切なかった。また、二十九年、六月一日時点の障がい者任免状況の再点検でも、障がい者の雇用者数について、充たしていたことは判明している。

今後、我孫子市は今回の水増しの疑念を払うために障がい者雇用状況をホームページなどでお知らせするとともに、毎年広報で公表している「人事行政の運用状況」の中に、条例では入っていないが、障がい者雇用の状況を積極的に入れるなど、よくと考えている。

ふるさと納税と我孫子市

九月補正予算で、ふるさと納税の寄附者贈答品百十三万四千円(二百五十件)が計上された。これは当初予算に計上していた我孫子市へ寄附した方への贈答品分二百二十六万八千円(七百件)では、足りなくなる恐れが出てきたからである。我孫子市への他市からの寄附金、ふるさと納税が増えたことは良いことだが、逆に考えると我孫子市民が行う他市への寄附金も多くなっていることが考えられる。

我孫子市のふるさと納税は、平成二十九年、市税の減収額は約一億一千六百万円。三十年度は、一億五千九百万円の市税の減収となる。

ふるさと納税とは、十年前、地方税法の改正で創設された制度。自分の選んだ自治体に寄付することで、金額が二千万円を超える部分について、所得税と住民税から原則として全額控除される制度である。(一定の上限あり。)制度本来の狙いは「生まれ育ったふるさとに貢献できる制度」「自分の意思で応援したい自治体を選ぶことができる制度」であったのだが、現実には選ぶ自治体を「返礼品」で決める人々が極めて多いことや届いた返礼品をインターネットで売買する

他、節税の目的で高額寄付をする者が多くみられるなど、応援寄附金という本来の趣旨を逸脱している。ついに、総務省がふるさと納税制度の見直しに動き出した。

ふるさと納税が集まる自治体、例えば、大阪府泉佐野市は昨年、百三十五億円の寄付額があった。返礼品はウナギ、ビールなど地元の特産品ではない。泉佐野市は大いに潤い、住民が居住地以外の自治体に寄付することは、居住する自治体に入る税金が少なくなるということ、それは自治体の財政に反映され、ひいては住民サービスの低下につながる。ふるさと納税の制度が元々の趣旨に立ち返って、地方を元気にする真の制度として運営されることを国は早急に見直しを行ってほしい。心からそう願っている。

印南が代表を務める会派 「あびこ未来」代表質問

●財政指針

- 1) 我孫子市の財政状況
- 2) 新クリーンセンターと財政

●教育行政

- 1) 猛暑への対応
(部活、体育館の冷暖房装置他)
- 2) 働き方改革
(勤務実態と管理、部活ガイドライン他)

*** 詳細は議会だより、
市議会 HP の録画等、
いつでもみることができます ***

<http://www.discussvision.net/abikosi/2.html>

会派代表質問より 「どうする猛暑への対応」 (教育行政)

この夏は、史上最高の気温を観測するなど、猛烈な暑さに見舞われた。この暑さは今年だけの現象ではなく、さらに温暖化が進み、猛暑を想定した対応が急務となっている。特に、子ども達への対応は命にかかわるだけに極めて重要である。今年七月、愛知県豊田市の小学一年生が熱中症で亡くなっている。我孫子市でも、この夏、熱中症で学校から救急搬送された児童が四名いたと報告を受けている。

私は部活動の在り方について、現在、策定中の「部活動ガイドライン」指針の中に、暑さがピクになる時間帯の活動の自粛や部活動の顧問を対象とした熱中症の危険性を学ぶための研修などが必要だと考える。また、ハード面でも暑さの対策が重要である。我孫子市は厳しい財政状況のなかで、すでに全小・中学校の教室にクーラーを設置したが、各学校の体育館でも空調設置などの暑さ対策が必要である。文科省の補助金を活用するなど、早急な整備を要望したい。

体育館は集会や部活動の利用だけでなく、地震や豪雨の際、避難場所となる。この夏の西日

私、印南宏は、「石上としお」さんの活動を応援しています。

**石上としおさんの
政策を応援しよう!**

全力で聴く。全力で届ける。全力で挑む。

産 業：電機産業の力で魅力あふれる未来をつくります。
職 場：誰もがイキイキと働ける職場をつくります。
暮らし：将来にわたって安心して暮らせる社会をつくります。

石上としお.com
石上としお
toshio ishigami



本の豪雨でも体育館は避難場所として、その暑さが逆に問題視されていた。子どもの教育環境と被災者支援の観点から、学校体育館の暑さ対策を提案する。

我孫子雑感

◆人生百年時代、自分の健康をどのように維持していくのか、晩酌をしながら考えることがある。最近では散歩やテニスなども始めた。また、我孫子市民体育館に行くと、トレーニングルームを利用することもある。四年前、市民体育館の管理運営をアークシオ・フクシ共同事業体（指定管理者）が請け負う形になって、随分とサービスが向上した。一回一時間の利用料が百九十円（六十五歳以上なら九十円）、こんなに安くて、丁寧な指導をしてくれるトレーニングジムは他にない。是非、多くの方の利用をお勧めしたい。しかしハード面では昭和六十一年に竣工した体育館の老朽化が進んでいる。先日サブリナは雨が降る度に、奥の一面が使用不能となる。雨漏りが原因なのだが、約一年半も前から原因がわからず改善が進まない。九月議会の二十九年度決算審査で、雨漏り調査委託料が計上されていたので、この問題を取り上げて早期の改善を強く要望した。今月からサブアリーナの屋根、全面改修に着手するが、十二月の完成まで雨が降るたびに指定管理者がブルーシートを置いて雨水対策を

しなければならぬ。設置管理者である我孫子市として、より市民に喜ばれる市民体育館にするための努力を促したい。

◆私たちの生活でなくてはならない水道。今、国会では水道法の改正に動き出している。背景には、ここにも人口減少がある。水需要の減少、水道施設の老朽化、深刻化している人材の不足など、直面している諸課題に対応し、水道を持続可能な事業にしていくことは国としての絶対条件である。現在、水道事業は公営企業として、企業会計に基づき、原則として独立採算制で運営されている。従って、住んでいる自治体で水道料金の違いがある。全国に水道事業体（局）は約千四百あるが、事業の規模、職員数、経営状況もバラバラ、特に小規模の水道事業体は老朽化した水道管の維持すら難しい状況にある。改正法の目的として、老朽化した水道施設の更新に民間資金を活用する道を開くことや新たに水道施設運営権を設定し、民間事業者による水道の管理・運営を可能にする（PFI・コンセッション）ことにある。我孫子市水道は経営が安定している事業体であり、水道法改正後、すぐに民営化などの動きはないが、海外で民営化し

た水道事業が経営第一主義の中で水質の悪化、供給の停滞、サービスの質の低下、料金アップなどで失敗した事例が大きく報道されている。水道法の改正についても市民の皆さんの監視の目を強化していただきたい。

◆来年、我孫子市は選挙の年を迎える。平成三十一年一月二十日（日）は我孫子市長選挙の投票日、四月は千葉県議会議員選挙、七月は参議院議員選挙、十一月には我孫子市議会議員選挙が予定されている。九月議会では選挙管理委員会から、我孫子駅北側地区の投票区の再編と期日前投票所の開設が提示された。十月の定例選挙管理委員会決定される。変更の理由は投票区一か所当たりの不均衡を是正し、スムーズな投票を行うためである。人口が増加している地区でもあり、期日前投票も新たに、イトーヨーカ堂我孫子店内にある「あびこ市民プラザ」を投票日の前日と前々日の二日間を設置する。さて、現職の星野市長は九月議会の初日の一般質問日に、四選に向けて早々に立候補を表明した。現段階では他に立候補を表明した方はいない。このまま、無投票になるのか、否か。わからないが、過去の市長選挙、平成十九年、平成二十

三年、平成二十七年、いずれも二人の立候補者による一騎打ちの形であった。投票率は、二十七年は三十二・五二％であり、市長選挙は十人の有権者の内、三人の投票によって市長が決まっている。それで良いのか。来年の市長選挙では十八歳から有権者の投票も含まれるが、平成二十七年の市長選挙では二十歳から二十四歳までが投票率十六・三八％、二十五歳から二十九歳までが十五・一七％であった。若い方々が投票に行きたいと感じられるような、未来の我孫子を占う、輝かせるような市長選挙になればと思っている。

宏

印南 宏 後援会

〒270-1108

我孫子市布佐平和台 7-1-18

TEL: 7189-1598

E-MAIL: hiroyinabiko@kca.biglobe.ne.jp

ブログ: <http://hiroshi4649.at.webry.info/>HP: <http://www7b.biglobe.ne.jp/~innami-hiroshi/>